

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏名	S.T.	学部・学科	国際商学部・国際商学科
学年	4	派遣国	イタリア
派遣大学	ベネチア大学		
期間	2023年 9月 10日～ 2024年 5月 30日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / <u>学外の学生寮</u> / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / <u>2人部屋</u> / 3人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	○	シャワー	○	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	○
滞在費	約 (78430) 円 *1ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(バス) で、約 (20) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先2の内容を追加してください。

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / <u>アパート</u> / その他 ()					
部屋	<u>個室</u> / 2人部屋 / 3人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	◎
	キッチン	◎	冷暖房	◎	冷蔵庫	◎
滞在費	約 (57600) 円 *1ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(バス) で、約 (30) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

2. 日常生活

(1) 1ヶ月の生活費

項目	金額	内訳
食費	47631円	スーパーでの買い物・外食
学用品購入費	1907円	ノート・印刷費

交通費	23815 円	飛行機・電車・バス
交際費	21907 円	宿泊所・ギフト
その他	円	

合計

95263 円

*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

メストレ駅の近くはイタリア人の友達でも、夜中は「十分に気を付けて」といわれるような地域。
常に周囲の人（特に移民系の人）にじろじろと見られ、スリ等の犯罪を狙うもしくはアジア人として「珍しさ」を見てくる。
旅行では特にナポリが危ないとされ、昼間でも一人で出歩くことは推奨されない。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ()		
加入期間	(10) ヶ月間	保険料	(103930) 円

現地の国/大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称			
加入期間	() ヶ月間	保険料	() 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市/町 (**ベネチア**)
イタリア本島からはバスと電車が主な移動手段であり、運賃等の安さからバスが選択されやすい。
前述したような移民系の人には無賃乗車をする人もちらほら存在し、ランダムに来るチケットチェックのスタッフを見つけ次第そのバスから逃げている。
また観光客等現地のルールに慣れていない人々も無意識にも無賃乗車をしてしまうケースもあり、「知らなかった」では罰金は免れない。
危ないエリアはあると言えど、多くの観光客が存在するので助けは求めやすいともいえる。
ベネチアのメインの島内ではすべてを徒歩で移動することは難しく、ヴァポレットという水上バスで移動をする。
キャンパスがその島内やメストレ等の場所に点在しているのでヴァポレットやバス、電車を使う機会はいくつかある。
世界的な観光地であるため英語は通じるが、あいさつなど基本的な言葉も話せないと店員等からいい態度は期待できない。

【学業編】

1. 大学情報

大学	ベネチア大学	所在地	イタリア、ベネト州
最寄空港	マルコポーロ空港	空港からの距離	9km
空港⇄大学	(バス)		*移動手段
学生数	約 19000	留学生数	700 以上
学部	Economics and Management Languages and Cultures Science and Technology Arts and Humanities Public Governance and Social Change International Studies and Globalization Preservation and Management of Cultural Heritage *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	SCAMBIO CULTURALE (Economics and Management) *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (9)月～(1)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	ITALIAN LANGUAGE – PRACTICE A1 – Classe 3 (SIE) – a.a. 2023-24	VENETIAN ART AND ARCHAEOLOGY – 1 FROM THE ORIGINS OF VENICE TO THE BIENNALE		ITALIAN LANGUAGE – PRACTICE A1 – Classe 3 (SIE) – a.a. 2023-24	VENETIAN ART AND ARCHAEOLOGY – 1 FROM THE ORIGINS OF VENICE TO THE BIENNALE
午後	INTRODUCTION TO THE ITALIAN LANGUAGE A: COMMUNICATION AND CULTURE MONETARY ECONOMICS		MONETARY ECONOMICS	Business Law INTRODUCTION TO THE ITALIAN LANGUAGE A: COMMUNICATION AND CULTURE MONETARY ECONOMICS	Business Law Business Law

② (2)月～(5)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	VENETIAN ART AND ARCHAEOLOGY – 2 VENETIAN HERITAGE IN THE ADRIATIC AND IN THE MEDITERRANEAN			VENETIAN ART AND ARCHAEOLOGY – 2 VENETIAN HERITAGE IN THE ADRIATIC AND IN THE MEDITERRANEAN	
午後					

3. 履修内容

科目	ITALIAN LANGUAGE – PRACTICE A1 – Classe 3 (SIE) – a.a. 2023-24		
履修期間	9月～1月	単位数	6
授業内容／形態	初心者や全くの初心者に向けた、イタリア語を学ぶコース。		
成績	25/30		
YCU 振替予定	科目	特講（国際商学部留学科目 A）	
	単位数	2	
	担当教員	大澤 正俊	

科目	INTRODUCTION TO THE ITALIAN LANGUAGE A: COMMUNICATION AND CULTURE		
履修期間	9月～12月	単位数	0（↑と合わせて履修）
授業内容／形態	イタリア語の世界的な位置づけについて、その魅力や過去と現在において広まったプロセスに言及（例：移民、植民地化、文化の拡散）；言語と文化の関連に焦点を当て、イタリア文化と地域（芸術、スポーツ、料理など）の最も代表的な側面に注意を払い、ジェスチャーの意味的システムにも触れる；イタリア語の文法的基盤に言及し、対応する言語実習クラスのレベルの内容に関連付ける；ストーリーテリングの文章構造；レジスターの概念について、初級レベルの言語とセミオティック変数との関連性に言及；呼びかけの代名詞、付加形式、ジェスチャー；共通の経験領域（大学、家庭、レストラン、都市など）内での単語習得。		
成績	25/30		
YCU 振替予定	科目		
	単位数	0	
	担当教員		

科目	VENETIAN ART AND ARCHAEOLOGY – 1 FROM THE ORIGINS OF VENICE TO THE BIENNALE		
履修期間	9月～1月	単位数	6

授業内容／形態	このコースでは、ヴェネツィアの起源からセレニッシマの崩壊に至るまでのヴェネツィアにおける芸術の発展と普及に焦点を当てる。ヴェネチアという都市の特殊な地形学的条件の分析から始まり、建築から彫刻、絵画に至るヴェネチア芸術の主要な作品を、中世中期から19世紀までの歴史的・文化的背景の中で、トレヴィーゾ、ヴェローナ、ヴィチェンツァ、パドヴァといったヴェネト地方の他の重要な芸術的中心地の芸術作品とも関連づけながら考察する。一つの傑作の分析は、歴史的背景を垣間見る最初の一步となり、その特徴、様式、制作に用いられた技法について深く掘り下げる機会を学生に提供する。	
成績	27/30	
YCU 振替予定	科目	特講（国際商学部留学科目 C）
	単位数	2
	担当教員	大澤 正俊

科目	Business Law		
履修期間	9月～11月	単位数	6
授業内容／形態	ビジネス法は、経済学の学士号プログラムである「経済学、市場、ファイナンス」の中核的な教育活動である。このコースは、国内および国際的な視点からビジネス法の中核的な側面を学生に提供することを目的としている。このコースでは、異なるビジネス組織とそれらの規則についての説明が提供され、欧州連合によって開始された調和プロセスや、欧州連合単一市場内での規制競争と企業の移動の影響についても解説される。特に、法人のための法的枠組みに焦点が当てられる。		
成績	21/30		
YCU 振替予定	科目	特講（国際商学部留学科目 B）	
	単位数	2	
	担当教員	大澤 正俊	

科目	MONETARY ECONOMICS		
履修期間	11月～1月	単位数	6
授業内容／形態	第Ⅰ部：導入 なぜ貨幣、銀行、および金融市場を学ぶのか？ 金融システムの概要 お金とは何か？ なぜ私たちは貯金をするのか？ 第Ⅱ部：金融市場（導入） 金利の意味と振る舞い 金利のリスクと期間構造 保険市場 第Ⅲ部：金融機関 金融危機 第Ⅳ部：中央銀行と金融政策の実施 中央銀行と連邦準備制度（ECB）		

	貨幣供給プロセス 金融政策のツール 金融政策：戦略と戦術 第 VI 部：貨幣理論 数量、インフレーション、お金の需要の主要な理論 金融政策と景気需要曲線 景気需要と供給分析 金融政策理論 金融政策における期待の役割 金融政策の伝達メカニズム その他のトピック 1. 新興市場経済における金融危機 2. ISLM モデル 3. 非銀行金融 4. 金融デリバティブ 5. 金融サービス業界における利益相反	
成績	30/30	
YCU 振替予定	科目	金融システム論
	単位数	2
	担当教員	高橋 豊治

科目	VENETIAN ART AND ARCHAEOLOGY – 2 VENETIAN HERITAGE IN THE ADRIATIC AND IN THE MEDITERRANEAN		
履修期間	2 月～5 月	単位数	6
授業内容／形態	このコースの目的は、選ばれた事例を通じて、かつて Stato da Mar に属していた領土に保存されているヴェネツィアの遺産を説明すること。この広範な領域には、現在のスロベニア、クロアチア、アルバニア、モンテネグロ、ギリシャとトルコの一部、キプロスとクレタ島の沿岸地域が含まれていた。これらの場所の多くで、ヴェネツィアの存在の痕跡はまだ見られ、いくつかの場所では特に顕著だ。例えば、キプロスのニコシアの城壁などが挙げられる。したがって、このコースでは、ヴェネツィアの歴史の重要で、しかしまだ十分に知られていない側面を探求し、アドリア海と地中海でのヴェネツィアの考古学的、芸術的、建築的な文明の影響に焦点を当てる。		
成績	27/30		
YCU 振替予定	科目	特講（国際商学部留学科目 D）	
	単位数	2	
	担当教員	大澤 正俊	

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800字以上)

1 アカデミックイヤーという期間、イタリアのベネチアに留学するという経験ができて本当に良かったと感じています。

私自身留学先をここに決めた時や渡航前は不安でいっぱいでしたが、自分にとって人生を変えるような日々を過ごすことができたと考えます。

言語能力の上達により、他言語を話しコミュニケーションをとる能力が格段に上がりました。

イタリアの主な言語であるイタリア語は少ししか習得できなかったものの、現地で毎日聞いたり見たりすることで「なんとなくわかる」という感覚をつかめました。

また英語においてはルームメイトや友達、教授などと話す際に毎日多くの時間において使用していたため渡航前とは別人というほど話すようになりました。

能力面だけでなく性格も、以前よりも他人とコミュニケーションを活発にとるようになったと感じます。

これらの変化があったおかげでより多くの人々と関わることや、その人々の考え方や生活等の深い理解と学びを得ることもできました。

しかし私はこれらのことが他の国や地域ではなし得なかった、またはイタリアのベネチアという地が自分にもたらしてくれたことが多くあると考えます。

まず一つ目は世界的な観光地であり常に多様な人々であふれる土地であったことが、文化の異なる地でも自分らしく生活することを叶えられた要因でもあると感じます。

加えて知り合いや友達に優しさや愛を惜しみなく使う現地の文化が、違う感じ方や考え方・好みがあっていいのだと思わせてくれました。

また英語やイタリア語に関しても、日本から来た私に対して決して「話せることが当たり前」とせずゆっくり話を聞いて「こういうこと？」とくみ取ってくれることも多かったです。私自身メンタルが決して強いわけではなくむしろ傷ついて落ち込みやすい性格なのですが、このような文化や人柄に多く支えられました。

それでも不安や悲しさに襲われたこともあります。おいしいごはんや美しいものにあふれた環境の中で何とか立て直すことができました。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400字以上)

私はこの留学の経験を自身の強みとし、イタリア発のブランドの企業に内定をいただきました。そのお仕事をするうえでも人生における自分の在り方を模索するうえでも、この経験を様々な形で活かしていきたいと考えています。

具体的にはまず、培うことができたコミュニケーション能力をしっかりと使って生きていきたいです。

言語面では英語、少しですがイタリア語の理解を深めることができました。

また留学中に様々な国に訪れたことや様々な国の人々とコミュニケーションをとる機会があったことから、ヨーロッパ圏の言葉を聞いてこちら辺の国かなとも予想できるようになりました。

言語自体はコミュニケーションツールのひとつですが、それに加えていろいろな生活習慣や価値観等も学んできたので柔軟にたくさんの人と関わるができると思います。

加えて今自分の近くにいてくれている人を大事にするという価値観に共感し、それを自分にも取り入れていきたいです。

イタリアやヨーロッパの文化と自分の留学中の経験から、そう感じています。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400字以上)

頼れる人を頼ることです。

留学するか否か決めること、どんなプログラムでどこに行くのか決めることから帰ってきた後の過ごし方まで一人で決め切るのは不可能に近いです。

意外と頼るところを見つけようとすると、私はそばにあたりました。

資金援助をしてくれようとしていた両親や海外に興味があり知識もある兄弟をはじめ、同時期に留学を考えていた友達やすでに留学から帰ってきた友達もいました。

もちろん学校やグローバル推進室にもたくさん相談をしましたし、そこで得られた情報はいつも自分の決断を後押ししてくれました。

良くも悪くも自分次第でどんな生活を送るのが大きく変わってくる時間です。

そんなときの一つ一つの決断を、たとえ小さいものだとしても納得できる形でできたらいいと思います。

私はもっと早くもっと多く、大学や先輩に相談・コンタクトをしていればよかったと感じることがありました。

私の時と制度が変わっていなければ、交換留学でその大学に過去行った先輩に連絡を取り様々な質問をすることが可能です。

ぜひ視野を広くして他人を頼り、その他人にも自分の経験を還元してあげてください。